

令和元年5月10日(金)
関東地方整備局 河川部
関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所
栃木県 県土整備部 河川課
足利市 都市建設部 道路河川整備課

記者発表資料

栃木県足利市（渡良瀬川）で水防演習を開催します ～「第68回利根川水系連合・総合水防演習」～

第68回利根川水系連合・総合水防演習を下記のとおり開催しますのでお知らせします。

記

- 開催日時：令和元年5月18日（土）午前8：30～（受付開始）
- 開催場所：栃木県足利市五十部町地先 渡良瀬川左岸 38.6km 付近
- 演習内容：別紙をご覧ください。

本演習は、昭和22年のカスリーン台風による未曾有の被害を教訓として昭和27年から始められ、国土交通省及び関東1都6県（栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）並びに開催市町村主催により、毎年利根川水系の河川で実施しており、本年は足利市にて開催します。

今回の演習は、第1部の水防訓練では地域特性を活かした実践的な演習をはじめ、流域住民の主体的な避難につながる緊急速報メールを活用した洪水情報の大規模配信訓練等を実施します。

また、第2部の救出・救護訓練では関係機関が連携した訓練を実施します。

当日の演習会場では、降雨体験車や建設機械の操作体験コーナー、水防新工法の展示、さらには地元物産展なども行います。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、埼玉県政記者クラブ、千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、足利記者クラブ

お問い合わせ

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------|------------------|
| ○国土交通省 関東地方整備局 河川部 水災害対策センター 課長補佐 | たけとし けんじ
竹歳 健治 | TEL 048-600-1482 |
| ○国土交通省 関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所 副所長 | おかど まさとし
岡戸 昌利 | TEL 0284-73-5551 |
| ○栃木県 県土整備部 河川課 課長補佐(総括) | やなせ かずひろ
築瀬 和裕 | TEL 028-623-2437 |
| ○足利市 都市建設部 道路河川整備課 課長 | えんどう あきお
遠藤 彰夫 | TEL 0284-20-2191 |

第68回利根川水系連合・総合水防演習 会場周辺案内図

○車で来られる方（下のマップを参考にご来場ください。）



○電車で来られる方（無料シャトルバス運行しています）

JR 両毛線「足利駅」、東武伊勢崎線「足利市駅」より会場までシャトルバスで約15分



【報道関係の皆様】

令和元年5月10日
第68回利根川水系連合・総合水防演習事務局

「第68回利根川水系連合・総合水防演習」取材のご案内

第68回利根川水系連合・総合水防演習を、令和元年5月18日（土）に栃木県足利市五十部町地先（渡良瀬川左岸38.6km付近）にて開催いたします。

本演習は出水期を迎えるこの時期に、地域を守る水防団（消防団）の士気の高揚、ならびに水防技術の向上、後継者の育成による技術継承はもとより、避難訓練により地域住民の防災意識を高めることで水防体制に万全を期すことを目的として開催されます。

この水防演習は、昭和27年に初めて開催されて以降、「栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、千葉県」の5県で交代して毎年実施しているものであり、今年度は演習参加者、来場者合わせて約14,000人を見込んでいます。

第一部「水防訓練」は、開催場所の地元で水防活動を行う足利市水防団による水防工法の準備や漏水、洗掘、決壊及び越水などの堤防の被災に対応する水防工法の実動訓練を行います。また、国土交通省が行う河川パトロールカーによる河川の巡視・情報収集訓練、緊急速報メールによる洪水情報の配信訓練や今年2月に創設した「関東リバースカイアイ」によるUAVを活用した状況把握訓練、地元足利市の地域住民による避難訓練なども同時に行われます。

さらに、栃木県による技術支援のもと、足利市三重地区自主防災会連合会、栃木県立足利清風高等学校、足利大学、ものづくり大学、アキレス株式会社による「自衛水防訓練」や足利市少年消防クラブによる水防活動支援などにより「水防活動の重要性」についての理解を促していきます。

第二部「救出・救護訓練」は、「増水により渡良瀬川の左岸堤防が決壊し、足利市から広域に氾濫した」という想定で実施されます。

訓練内容は、国土交通省緊急災害対策派遣隊（通称TEC-FORCE）と独立行政法人水資源機構による排水ポンプ車を用いた氾濫水排除訓練や、航空機、ヘリコプター及びUAV（無人航空機）による浸水被害箇所状況調査を行うとともに、ボートによる孤立者の救出やヘリコプターによる重傷者の救出、さらに救出された被災者の応急手当などの訓練を行い、多岐に渡る防災機関の連携活動と技術を披露します。

つきましては、「第68回利根川水系連合・総合水防演習」を取材頂きますようご案内申し上げます。

<※お願い>

当日取材の際には、総合案内に設けております、報道関係者受付にてご記帳頂き、自社の「報道」腕章を着用していただきますよう、ご協力お願いいたします。（報道関係者と判断できない場合に、念のため巡回の職員がお声がけさせて頂く場合がございます。）

～水防演習の歴史について～

昭和10年の利根川の大洪水を契機に、河川改修と水防の強化について内務省の土木会議が『水害防備策の確立に関する件』を決議しました。これを受け昭和14年には、利根川各地の水防団が集まり、指導者の育成と水防技術の向上を目指した合同の水防演習が開催されましたが、戦争が進むにつれてこの水防演習は全く行われなくなりました。

この様な状況のなか、終戦後の昭和20年代前半には戦争で疲弊した日本を、カスリーン(S22)、アイオン(S23)、キティ(S24)という大型台風が、毎年のように襲う事となります。特に昭和22年のカスリーン台風では、利根川右岸堤防が決壊し埼玉県・東京都の東側半分を水没させる大惨事となりました。

戦争に疲れ、水防工法すら忘れ去られていた利根川流域では、多大な被害が発生し、水防活動の必要性と水防演習の重要性が、あらためて叫ばれるようになりました。

昭和27年、第1回目の利根川水系連合水防演習が、カスリーン台風によって利根川が決壊した埼玉県北埼玉郡東村（現加須市新川通）において、建設省（現国土交通省）、1都5県、（社）日本河川協会（現公益社団法人日本河川協会）の主催で、500人の水防団が集まり開催されました。

以来、台風の来襲による2度の中止や東日本大震災による中止があるものの、利根川の沿川五県（栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、千葉県）の持ち回りで、毎年実施されており、演習参加者及び来場者を合わせて約14,000人を見込む大規模な演習に発展しています。

●ご取材に関するお問い合わせ

第68回利根川水系連合・総合水防演習事務局

○国土交通省	関東地方整備局	河川部	水災害対策センター	課長補佐		
			たけとし 竹歳	けんじ 健治	TEL 048-600-1482	
○国土交通省	関東地方整備局	渡良瀬川事務所	副所長			
			おかど 岡戸	まさとし 昌利	TEL 0284-73-5551	
○栃木県	県土整備部	河川課	課長補佐（総括）	やなせ 築瀬	かすひろ 和裕	TEL 028-623-2437
○足利市	都市建設部	道路河川整備課	課長	えんどう 遠藤	あきお 彰夫	TEL 0284-20-2191